令和 2 年 4 月 21 日

令和元年度名桜大学人間健康学部スポーツ健康学科中間評価結果報告

首記につきまして、報告します。

1.中間評価の設定（＜添付 1＞＜添付 2＞＜添付 3＞＜添付 4＞＜添付 5＞参照のこと）

スポーツ健康学科においては、下記の手続きにより合意形成を図り設定をした。また、設定後も運用の方法について意見交換しながら進めた。年間を通じて 10 回の学科会議での審議を経て運用した。

・第 1 回学科会議（4/3）

時期・内容について継続審議。ゼミ選択とのリンクが検討事項。

・第 2 回学科会議（5/8）

成果物をレポートとポートフォリオにする。ゼミ選考の資料としない。全教員が均等に評価を担当する。中間評価のルーブリックを作成する。

・第 4 回学科会議（6/5）

タイトルを「スポーツパフォーマンス研究」から「スポーツに関する事例研究」へ。タイトルを「ウエルネス事例研究」から「健康に関する事例研究」へ。「まとめ方の例」から「研究の意義」を削除する。「先行研究をもとに考察」とする。　データをグーグルドライブに保存する。

・第 5 回学科会議（7/3）

中間評価規程・要項・レポートの手引きについて説明された。進級には関係しないことが確認された。アセスメントポリシーの説明会の開催について承認された。

・第 6 回学科会議（8/7）

時間の関係上，各自で資料を確認し，意見等があれば仲田先生に連絡するように依頼がなされた。

・第 7 回学科会議（9/4）

①中間評価事例研究レポート提出方法＜学生が担当教員の研究室訪問し提出する⇒スポーツ健康実習棟事務室へ提出するに変更がなされた。(学生提出 12 月 27 日、担当教員の返却はコメント記入し 1 月 14 日事務所へ)＞　②レポート様式は、中間事例研究レポートの手引きに則り提出する。③事例研究レポート評価担当については、学科長を除く全教員で担当する。※留学中の学生については、電子ファイルでの提出を認める。

・第 9 回学科会議（10/2）

当初、①事例研究レポートと②ポートフォリオの提出を予定していたが、学生からの意見を踏まえて、②は取りやめることとなったことの報告がなされた。ポートフォリオの整理の仕方を初年次教育で教育することの必要性について意見があがった。

・第 12 回学科会議（12/4）

後日、奥本先生から送られた資料に対して、意見を出すよう依頼された。

・第 13 回学科会議（1/8）

１２月２７日に提出され、１４名が未提出であると報告された。未提出者に対する罰則はないが、未提出者に対し教務委員から通知をして、スポ健棟の事務所への提出を促すこととなった。資料に沿って説明がなされ、コメントを記載して 1 月１４日までに提出するよう依頼があった。

・第 15 回学科会議（2/21）

中間評価ルーブリックが提案され、承認された。3 月 13 日（金）まで中間評価ルーブリックに基づいて事例研究レポートの評価を行い、①学生に返却すること、②評価結果の集約のため Google フォームから報告するよう依頼がなされた。フォームから評価結果を報告する際、各教員が担当している中から、1 名の優秀レポートの推薦（「ぜひ推薦してほしい」「推薦してほしい」）するよう依頼がなされた。フォームのアドレスは担当者からメールにて送付するとの報告があった。また、図表がない事例研究レポート場合には、「評価できない」にチェックすることとなった。①学生への返却；ルーブリック（紙媒体）を事例研究レポートに挟み、学科棟事務所（高橋さん）に提出。事務所にて返却する。②結果の集約；Google フォーム上から評価結果を報告する。

2.中間評価の目的（＜添付 1＞＜添付 2＞＜添付 3＞参照のこと）

自身のスポーツに関する活動やウエルネス・健康に関する活動を、大学 2 年間で学んだスポーツ・健康科学の手法を用いて評価し自分史を編纂することにより、アカデミックライティングの能力を高めることを目的とする。

3.中間評価の目標（＜添付 1＞＜添付 2＞＜添付 3＞参照のこと）

（1）アカデミックライティング能力を高める。

（2）スポーツ・健康科学の手法を用いる事例研究の方法を理解する。

（3）これまでのスポーツに関する活動やウエルネス・健康に関する活動を評価し、これからの活動の発展につなげる。

4.中間評価の提出物の具体（＜添付 1＞＜添付 2＞＜添付 3＞参照のこと）

（1）事例研究レポート

下記のいずれかの事例研究を選択し、執筆する。

①スポーツに関する事例研究

自己のスポーツパフォーマンスを対象とした事例研究

②ウエルネス・健康に関する事例研究

自己のウエルネス・健康に関する活動を対象とした事例研究

※中途の計画変更により、当初計画していた「ポートフォリオ」は実施しないこととした。

5. 中間評価の評価とフィードバックおよび表彰（＜添付 5＞＜添付 7＞＜添付 8＞＜添付 9＞参照のこと）

（1）評価者＜添付 5＞

スポーツ健康学科教員

（2）評価方法

中間提出：チェックリスト＜添付 7＞

最終提出：チェックリスト＜添付 8＞およびルーブリック＜添付 9＞

（3）フィードバック

①中間提出（12/27）

チェックリスト＜添付 7＞で評価し、学生へ返却した。

②最終提出（2/7）

チェックリスト＜添付 8＞とルーブリック＜添付 9＞で評価し、3 学年ゼミ担当教員を通じて返却する。3 学年ゼミ担当は、学生指導の基礎資料として活用する。ルーブリックは、卒業研究論文のルーブリックを参考に作成した。

紙媒体の提出と合わせて、電子媒体を Google クラスルームで提出させた。教員によるルーブリック評価の集計は、Google フォームを用いて業務の効率化を図った。

③表彰

評価者に特に優秀であったレポートを推薦してもらい、「スポーツ健康学科賞（学業成績の部：事例研究レポート）」を授与することとした。今回は、7 名の学生の推薦があった。表彰は、令和 2 年度前学期在学生オリエンテーションで行う（在学生オリエンテーションが中止となったため、後学期以降に実施することを検討している。）。

6.学生への周知（＜添付 6＞参照のこと）

学生への「アセスメントポリシーにかかる説明会」を開催し、学生への周知を行った。

日時：7 月 29 日（月）12：15-12：45

場所：学生会館サクラウム 3 階大講義室 B

対象：2 年生全員

7.中間評価の結果（<添付 10>参照のこと）

（1）論文構成

論文が「序論・本論・結論」または「緒言（目的を含む）・方法・結果・考察・結論」に分かれているかを評価した。S 評価 36%、A 評価 32%であり、論文構成について理解していることがわかった。B 評価以下 29%の学生に課題が残った。

（2）データ

決められた期間でデータを収集し、そのデータ収集法が妥当であるかを評価した。S 評価 34%、A 評価 18%の学生が、データについて理解していることがわかった。B 評価以下 48%の学生に課題が残った。

（3）結果

図表のルールを守り、分かりやすく図表をつくることができたか、また本文中に結果を分かりやすく表現できているかを評価した。S 評価 16%、A 評価 38%の学生が、結果について理解していることがわかった。B 評価以下 51%の学生に課題が残った。

（4）考察

文献や授業を元に結果を考察し、結論に導けているかを評価した。S 評価 16%、A 評価 40%の学生が考察について理解していることがわかった。B 評価以下 44%の学生に課題が残った。

（5）引用

本文中の引用が正しく、文献リストが統一されているかを評価した。S 評価 19%、A 評価 26%の学生が引用について理解していることがわかった。B 評価以下 53%の学生に課題が残った。

（6）文章のルールと表現

独自に設定したチェックリストを元に、文章のルールと表現が守られているかを評価した。S 評価 24%、A 評価 49%の学生が文章のルールと表現について理解していることがわかった。B 評価以下 26%の学生に課題が残った。

（7）改善

中間提出で指摘された点を改善しているかを評価した。S 評 20%、A 評価 31%の学生が改善できていた。B 評価以下 49%の学生に課題が残った。

8.成果と課題

卒業研究論文のエントリーとして、手引き、チェックリスト、ルーブリック、評価体制を設定し実施した。それらを用いて、卒業研究論文の予行とできたことが最大の成果である。2 学年までの学修の成果を活用する能力を高める一助になり得たことも成果として挙げられる。筆者自身を研究対象にすることで、本学科の理念である＜人間の「からだ」と「こころ」、人間をとりまく「社会」について科学的に探究＞できたことも評価できる。

課題としては、中間評価提出を義務とする根拠がないために未提出の学生がいたことである。次年度は、ゼミ選考と関連付けて実施を計画している。同じように、学業成績にも反映されないため、中間提出後に改善や修正をしなかった学生が散見されたことである。この点も、ゼミ選考への関連付けで解消できると考えている。その他には、「データ」の収集方法と「結果」のまとめ方に課題があることが鮮明になった。手引の執筆方法へ追記を検討したい。あわせて、2 学年までの授業で、数的リテラシーを高めることを連関して展開し、数理学習支援センターの活用も促したいと考えている。

報告者　スポーツ健康学科　中間評価担当　仲田好邦